

第 1 日 (午前)

午前は主會者齋藤大吉君の開會の辭に亞いで次に掲ぐる4氏の講演あり。

1. 鑄鐵試驗法の表の説明…………… 齋 藤 大 吉 君
2. 鑄鐵の試験法と材質規格の調査報告…………… 百 々 初 男 君
3. 各國鑄鐵規格の比較に關する調査報告…………… 井 口 庄 之 助 君
4. 抗析試験片の摺みの比較試験…………… 同 君
5. 抗張及抗析試験の關係に就ての調査報告…………… 山 田 福 治 君

開 會 の 辭

齋 藤 大 吉

私は本日此鑄物研究部會を開くに至りました経過に付て一言致して置きたいと思ひます、元來我日本鐵鋼協會に研究部會を開き得るの規定の出來ましたのは去る大正 15 年の秋でありまして銑鐵部會製鋼部會、鑄物部會及鐵鋼科學部會の4になつて居ります、而して其第1會は同年 11 月八幡市に講演大會を開いた時で銑鐵部會を開き主として熔鑄爐に起る故障及其防止方法等に付て討論しました又第2會は昭和 2 年 11 月東京市で製鋼部會を開き平爐の構造及操業法に付て論議されました、次に本年は第3回として鐵鋼部會を大阪市に開き本邦にトーマス製鋼法採用の能否に就て討議することに決定し本日實業會館で行はれて居ります、而して從來の部會は協會が部會の問題に關係のある官民工場に委員の派遣を請ふと同時に協會の幹部及大學の教官等から委員を指名推薦して普通 30 名内外の委員で至極打解けて議事を進めて行くことになり其記事は「鐵と鋼」誌上に發表されて居ります。

然るに本年春頃愈々當地で講演大會を開くことに決定され私共が實行委員を委囑されて上京しました際私の意見として今度の大會の時にトーマス製鋼法の部會を大阪市で開かるゝことは至極結構であるが私の考では此問題は阪神地方の鐵工業者には比較的興味が少い故に同時に同地方の工業に關係の深い鑄物部會を開いて見たいと思ふ又其來會者は從來の委員制度によらず本會々員たると否とに拘らず誰でも列席し得る様廣く募集して見たいと進言しましたところ理事會は快く之に承認を與へられ其準備萬端は之を京都大學に一任すとの回答に接しました、夫れで私は井口博士、堀切學士に御相談を願ひまして去る 6 月全國 50 餘個所の工場に參考書類を送ると同時に鑄鐵試驗法の統一並に熔洗爐の大きさ及操業法等に付て報告を煩はすの書類を出しました。其後更に三菱神戸造船所の百々技師、神戸製鋼所の山田技師にも助力を請ひ此5人で小委員會を造り 2~3 回會合して部會の日程等を定め又此4君の外に三菱長崎造船所の平岡技師、新潟鐵工所の松浦技師等にも上述諸問題を分擔して豫備的研究を願ひ一方私の教室では別項に申上げます通り各所よりの報告に基き本日差上げました兩表の作製

に當つたのであります。

次に協會誌上其他に於て此部會に賛同の諸君を募集しましたところ北は北海道より西は長崎に至るまで全国各地の官署及民間工場より豫想外に多數の參會者を得まして名簿で御覽の通り其數 151 名の多數に上りましたことは私共の非常なる光榮として感謝して居るところであります。

又此部會を催ほすに付て大阪鐵工業同業組合の諸君が最初から多大の好意を寄せられ會場の無料貸與其他に於て非常なる便宜を與へられたことに就て久保田組合長に甚深なる謝意を表したいと思ひます。

最後に是非一言申述べて置きたいことは本日催します鑄鐵の試験法統一に關する部會に我邦材料學の泰斗たる京大の松村、濱部兩博士、九大の小野博士及東北大の砂谷博士等が公務御多端の折からにも拘らず私の懇請を容れられまして態々御出席下さいましたことは此部會の議事に一段の光彩と權威とを添へるものでありまして私は本日會合の諸君を代表して深厚なる謝意を表したいと思ひます、諸君は 4 博士の指導によりまして何卒圓滿に且つ有効に本日の議事を進められんことを切望します。之を以て開會の辭とします。

鑄鐵試験法の表に關する説明

齋藤大吉

全國の官省及民間工場 50 餘個所に對し鑄鐵の試験法統一に關し此表に示す 9 項目に付回答を求めましたところ 18 個所から回答を得ました其内陸軍造兵廠の大阪工廠及名古屋工廠よりのものは同一でありましたから一つに纏めました故に諸君の手許に差上げた表には 17 個所となつて居ります。而して其内には相當詳細なる意見を寄せられた所も多くありましたが私の手許で其要領を摘んで此表中に纏め一見して能く分る様に致した次第でありますから諸君の内には此表丈けでは充分其意見を現はして居ないと云ふ御不満もあらうと思ひますが事情を諒察されまして御宥恕を得たいと思ひます、又附圖中神戸製鋼所の抗張試片の摺みの部分に少し誤があります、其他にも多分訂正を要する點が若干あらうと思ひますが議事中御意見發表の際に訂正を願ひます。

又其内容に就ては其方面に智識淺き私として別に茲に申上げる意見を有して居りませぬ幸ひ本日は斯學に造詣深き松村、小野、濱部、砂谷諸博士の御臨席を得て居りますから先生方指導の下に充分御討議あらむことを切望致します。(附表参照)